

第9回岡山地方裁判所委員会議事概要

1 開催期日

平成19年3月1日(木)午後2時00分～午後4時30分

2 開催場所

岡山地方裁判所大会議室

3 出席者

(委員・五十音順)

天野和生委員，一宮和夫委員，小島淳委員，末金絹枝委員，仁後八重子委員，東正博委員，廣永伸行委員，益田佐和子委員，的場真介委員，山崎博幸委員

木山博雅委員，近藤恒一委員，橋本明久委員は都合により欠席

(事務担当者)

山本信善事務局長，松田剛事務局次長，奥靖史総務課長，加島雅章会計課長，大林俊二総務課課長補佐，中島健司会計課課長補佐

4 議事

(1) 開会宣言(総務課長)

(2) 所長あいさつ

(3) 委員長の選任

一宮和夫委員が委員長に選任された。

(4) 新任委員の自己紹介

一宮和夫委員及び東正博委員から自己紹介がされた。

(5) 意見交換

山本信善事務局長から1月27日開催の「裁判員制度全国フォーラムin岡山」の開催結果について報告があった後，意見交換が行われ(発言の要旨は5のとおり)，その後，加島雅章会計課長から裁判所新庁舎の基本コンセプト等について説明があり，引き続いて庁舎の見学が行われた。

(6) 次回の予定

日 時 7月2日(月)午後2時

テーマ 新庁舎にふさわしい執務の在り方について他

5 意見交換(裁判員制度全国フォーラム in 岡山について)の発言要旨(委員 , 事務担当者)

新聞報道によると、裁判員制度全国フォーラム in 岡山への参加者は約300人ということだが、申込者はどの程度の人数だったのか。

申込者は概数で350人ほどであった。

会場の定員と同程度の参加者があったのは、どのような広報活動を行ったからなのか。

山陽新聞社が新聞紙上に社告を出したり、ポスターを掲示するなどの広報を行った。参加申込みの窓口である山陽新聞社には、申込みの受付開始以降、2回目、3回目の社告を出す前といった早い段階から相当な数の申込みがあったようである。また、参加者を見てみると、去年は学生の参加者も多かったが、今回は社会人の参加も多数得られていた。これは、裁判員制度の実施時期が迫ってきたことで、市民の関心も高くなってきていることも要因ではないかと考えている。

フォーラムの当日、会場で上映されたビデオに裁判員候補者として4人が出ていたが、そのうち3人が辞退可能となっていた。今回のフォーラムは、裁判員として参加する市民の負担感を軽減することが大きな目的であったと思うが、その目的を達成するためには、裁判員を辞退できる人の範囲を広げる方向と、裁判員にならなければならないが、裁判員になったときの負担を軽減するという方向があると思う。そして、フォーラムは、市民の積極的参加を後押しするために開催するのであるから、ビデオのスタンスも後者を重視した内容にした方が良かったのではないか。

御指摘の趣旨は、今後の広報活動の在り方を考える上で参考にさせていただきたい。

フォーラムの当日、参加者にアンケートを記載してもらったようだが、そのアンケート結果は公表されるのか。

アンケート結果を最高裁判所のホームページで公表するかどうかは、最高裁判所で検討されることとなろうが、そのアンケート結果は、私どもとしても今後の広報活動に取り入れたいと考えている。

裁判員制度のフォーラムは全国で行われているようだが、岡山で行うのは今回が最後だったのか。また、パネリストは、どのように人選されたのか。

フォーラムの開催については、来年度のことは承知していないが、平成17年度、平成18年度と開催しており、来年度は裁判員制度実施の直前期でもあるので、今回までのフォーラムとは趣旨、目的を変えて開催することになるのではないかと考えている。また、パネリストの人選は主催者でもある山陽新聞社にお任せした。ただ、裁判所としても、裁判員制度実施のための環境整備の一つとして、勤労者が参加しやすい雰囲気作りのための参考に、裁判員の送り手となる経営者の意見を聞かせていただきたいということ、裁判員になったときの不安について、模擬裁判の裁判員経験者から、裁判員役を務める前の不安や実際に裁判員役を務めた感想を聞いてみたいという希望を述べたので、結果的に、今回のパネリストとなっていた方が選任されたように思う。

以 上